

# 若手職員が恋人の聖地活用へ

## スマホ活用やオリジナル婚姻届も

館山は幸せ願うカップルを応援します。館山市若手職員による館山創生プロジェクトチーム（PT）が、市が新たに認定された「恋人の聖地」の活用に取り組む。スマホを使って聖地を巡る仕組みやオリジナルの婚姻届など若手らしい発想の企画が並ぶ。20日から本格スタートで、メンバーは「カップルを応援して人を呼び込みたい」と

意気込んでいる。

「やる気のある若者。この指とまれ」。今年7月、金丸謙一市長の号令に手を挙げた男女8人がPTのメンバーだ。

今回のPTは、若手のアイデア、実行力を館山創生に生かそうという初の試みで、庁内部課の枠を超えて仕事をすることで、将来の市を担う人材づくりにつなげるのも市の狙い。

集まったのは、25歳から41歳までの平均年齢35歳。県外出身者、民間勤務経験者など経歴、職歴

も多彩なメンバー。「館山の」あしたをすてきに

プロデュース」を略してチーム名は「あすプロ」。最初のテーマとして指

示されたのが、7月にNPOから認定された恋人の聖地の活用。「金は出すが、口は出さない」（金丸市長）との方針の下、8月から会議を重ねてプランを練り上げた。

恋人の聖地としたスポットは、洲崎灯台、城山公園、館山夕日栈橋で、カップルたちが楽しむながらこの3か所を巡ることができるよう考

ブサイトをつくり、実際に聖地に行く」とサイト上で訪問証明のスタンプが

もらえ、周辺飲食店の割引など特典を受けられるようにする。

また、カップルを応援する取り組みとして、オリジナル婚姻届も作成。3か所の聖地スポットや花などをあしらったメンバーの1人が手掛けた可

愛らしいデザインで、21日から実際に市民課窓口で配布する。洲崎灯台では、地元の

活性化団体と連携してカップル用の「絵馬」を製作する取り組みも予定。一連の活動の皮切りとして20日には、恋人の聖地を周知するキックオフイベントも渚の駅にてやまで実施する予定だ。

都市計画課主任技師でチームリーダーの後藤淳さん（41）は「カップルだけでなく、夫婦や親子連れなども訪れ、館山の魅力に触れてもらい、将来的には移住にもつながるような取り組みにした

い」と意欲。プロジェクトチームについて「行政の縦割りを打ち砕き、横のつながりができない取組みをみをしたかった。実際各課の人材が集まったことで仕事もスムーズだった。これからも活性化に向けた取組みを企画実践していきたい」と熱意をみせる。

市は今後も同様のPTの参加者を募って、2期生、3期生として新たな取組み、人材の育成に

つなげたい考えで、金丸市長は「型にはまった考

えでは、地方創生に向けた自治体間の競争は勝ち抜けない。若手職員の柔軟な発想、思い切ったアイデアにこれからも期待したい」と話していた。

えた。今回PTが発表した内容によると、聖地3か所にNPOの公式プレートを設置。さらに聖地を紹介するスマホ用のウエ



恋人の聖地活用に取り組む若手PTメンバー＝市役所で